

農業技術センターニュース

目 次			
ナスコナカイガラムシに対する有効薬剤	… 1	キュウリ養液栽培による早進多収生産技術の確立	… 4
ニラ栽培における株元灌注剤の農薬残留	… 2	トルコギキョウ二度切り栽培における二番花収穫の早進化技術の検討（電照効果）	… 5
促成ピーマンにおける省力化技術の開発～作業負担の小さい仕立て方法の検討～	… 3	ナスの栽培条件と機能性成分（コリンエステル）含有量との関連	… 6

ナスコナカイガラムシに対する有効薬剤



写真1 ナスコナカイガラムシ



写真2 ナスコナカイガラムシによる被害

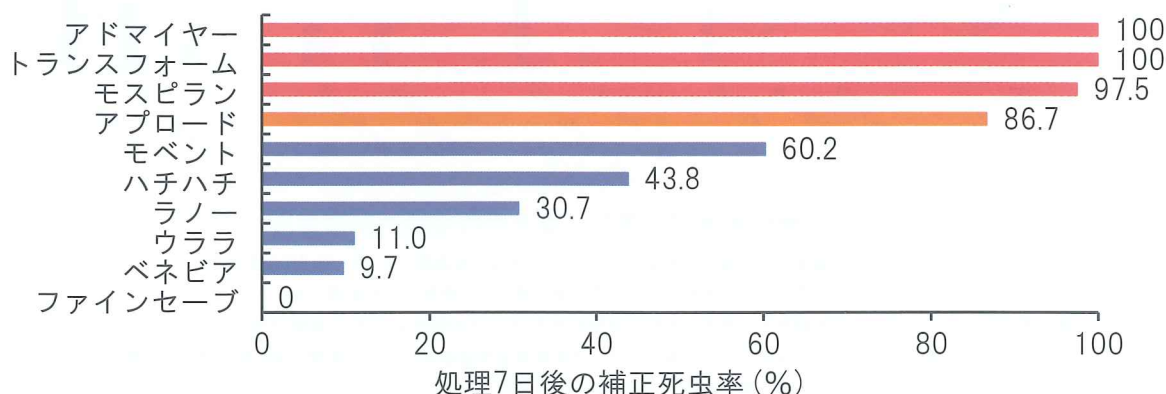


図1 ナスコナカイガラムシ2～3 齢幼虫に対する各種殺虫剤の効果

高知県の促成ナス、促成ピーマン類では、天敵利用の普及に伴い薬剤防除が減少し、その影響でコナカイガラムシ類の被害が増加しています(写真1、2)。コナカイガラムシ類に対しては有効な天敵の利用技術が確立されておらず、殺虫剤で防除するしかありません。そのためには、天敵への影響が少なく、コナカイガラムシ類に効果の高い殺虫剤を選ぶ必要があります。そこで、県内の施設ピーマンほ場からナスコナカイガラムシを採集し、各種殺虫剤の効果を調べました。

ナスコナカイガラムシの補正死虫率は、アドマイヤー、トランスフォームで100%、

モスピランで97.5%と、高い殺虫効果が認められました。また、アプロードでは86.7%とやや高い殺虫効果が認められました(図1)。

高い殺虫効果が認められたアドマイヤー、トランスフォーム、モスピランは、天敵の捕食性カメムシ類への影響が非常に大きいのにに対し、アプロードは天敵への影響が小さく、併用も可能であると考えられました。今後は、同じく県内で問題となっているマデイラコナカイガラムシの有効薬剤の探索や、コナカイガラムシ類の生物的防除法について検討し、防除技術の確立に取り組んでいきます。

(昆虫担当 米津聡浩 088-863-4915)